

十八

和書門		二〇四六	
類	號	函	架
冊	七	八	四

和書		二〇四六	
類	號	函	架
冊	七	八	四

內閣文庫	
番號	和 20464
冊數	40(18)
函號	167 62

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

C Y M

Kodak, 2007 TM: Kodak



太平記卷第十八目錄



天皇幸野小瀬幸乃事

高野と祿らると不和の事

ふもいといとあくる事

越前府の軍并金がさ記うらせめの事

ふ判友老母の事付ていふいふよらう事

倉がさ記の城落事

義美還所乃事一付一のまらわす所也

比叡山うらひ厚くの事

町田久成獻納之章

滋平文庫

綴

太平記卷第十八

先帝若野よせんうう乃事

直上者重頼乃所る相毒ゆりーと考成心極

りされりし備乃所と所頼をて山門より還奉

なりあしむりこりたりたえりまりうせん為也

あつた苑山院乃右交よとあられ所を給ひ

志んまん派せうさつあつたささむくの申ふるや

備さか頼小頼ごく重吉のう小所枕とそんあ

てしううまの頼の泊小所あまさとそんられ

一はあつりあまか山乃書小所とそんれうけ

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the title '太平記卷第十八'.

ていふ事うえん乃首乃ぬあそひよ水激とりふ
さう紅コウ花乃あそくさりし三子のま女も一約
乃あひしよさそりきてりりちたさく激さう
勢乃おとくよのを給ひくをゆあよりかの首を
さう志しんよ墨とつら紅し百目の老花之満ミ
の雲小おかりきてきてあつらふ人ひよりえさけ
まげさ下乃事一のふなりぬるんと為やなさう
るさあよりえさう一柝トクが不漁何るるまげか
かく小佛祓めえけなうれきて送長乃るよなう
さうらんとさうをうの箱之機海くび世中も

きものすくさく思ふまげまげさるるの意さ
けとを為花山のをさ例レイとをへもやく思ふ立
せ給ひきりあよ刑キツ了大捕ネ京キョウ武ブ家のゆり一紙
ゆくと一人志さうあさりあうが郊南トウの内侍と
まてひそくよ奏ソウ字ジ中チュウ々々へ感カンおの金ネが湯ユ代ダイ金
我小よせと毎マイ夜ヤおまけいさう圓エン如ニ強キョウ國クニ行ユクさ
白山乃京流キョウ水スイ也ヤ方カタよ来キ里リとらしはみミが勢セイ之シ
那ナ多タの城シロとせめおとく金ネ湯ユ代ダイうウるせあ
仕シらんと金ネひヒるるをさう之シ還エン章カウの時トキ借ツク書ショ信シンと
京キョウ初ハジメへ系ケイ上ジョウひし菊キク池チ掃ソウ部ブ助スケ武ブ俊シゲ日ヒ吉キチ加カ賀カ法ホウ服フク

一め一奉一を一とわきとてまよとけあやげ
るらもり興コトよるらんさせまりらせく使まれ上
水面を興コトきよなり三程の津路とけはつき
ふりかひひよ入てそのまふてまらん人のまりご
おと入てりらせうろ橋小忍をて京繁アまは燦々
是とまのりしきまきさうりわりさいなまは悪く
とまれた新やうでそ目乃られ種よ肉山まてそ
所々世路ひきん是色を款モトのをひつけまのら
はらまをわあらんすんともとさふもなうり
まれば今朝のふとまて若野の道とありまらう

せんとして毛より更まうりゆる減まりらせうまは
八月廿八日乃秋のまらまは道ゆくらくま
ゆくもは橋をるうりあな殿小俄よ雲日山の上
より倉クラ山乃ミ炭ヒカリ迄ヒカリ物とひ後るひきりひよ
忍てあり物乃ヨモスガシくくまら老り終朝天減くわ
う地とてうしきう同初海かめ小忍とてわ
まら物乃あけ月の小大和團あなふとひふ雨へ
ぞ地ち所々世路きりけ雨の有後星をまて人ヒ橋
の守り小山フカシ深フカシまて鳥乃ヒナ姿もまれ也ヒナ葉ヒナとり物
まらとひて家よりり色ところ減りりて後ト世セイと

とぞふのりきねと人皆をんきの田ひ成るす
高野と蘇らると不和の事

芝帝苑山院と忠ひかうせ流ひく高野小瀬幸成
さうべを國の軍務さり小及び守法寺法社の成
流津宿よぬらとみおまに^タあふひて或ハ軍用
とう人成ち流りの里成後きんよ^子松葉の大庭ハ
一人を若野へ来らす是ハ必しを成家とひりき
して云成とそむき^リま^リは^リあ^リすば^リ志^ス野山と
成^リさ^リあ^リる^リ方^ニ乃^リ所^ニ成^ルと^モせ^ラれ^ル極^ニ此
成^リ立^テ形^{アリ}と^テ守^テ備^執乃^ハ心^トと^テう^テま^リき^リ

あるり^{ソモクニヤク}柵^ト門^ト乃^ト流^トさ^リ若^クあ^リう^リと^モて^モ宗^ト
志^スあ^リぬ^クと^リて^モ衣^トと^モん^ト変^スあ^リと^モて^モあ^リふ
蘇^ルあ^リると^モ野^トと^モあ^リる^リよ^シて^モ是^レ種^トと^モ權^執此
んと^ハは^ヒと^モふ^トと^モ率^ノの^おり^り成^ルま^リ中^ニ以^テ
野^ノ傳^テ法^院と^モく^モん^トと^モて^モ一人^ノ上^人あ^リと^モ
う^リ一^ニ交^ス三^ニと^モの^中が^乃乃^ト場^ト小^ト入^リし^とも^も永^ク也
まん^アり^の行^業小^トと^モう^テ守^法座^ニけ^らん
め^テて^らん^一の^年久^シう^りけ^らる^リ成^佛と^モ
續^ジあ^リと^モた^リ乃^カ成^替成^ルと^モる^リけ^らて
ぐ^りん^ち乃^ハ法^トと^モ七^度也^をと^モる^リふ^とれ^ハ三^ノ成^ル

院乃内り門建城めり其是く所りきまはる院
院の法意僧正の意小入一平一助とうけく又百
目をこるひ結ひけまはる法意は院院あまき自然
智戒の結ひく法眼深秘の奥深きくあまきく
法眼めまらうらうらま自戒ひくたりあふまら
懺乃大天ぐたりしては人の心平小依院あま
不退の初学戒さぬたきんこきまはる上人定力
きんごまのまはる法眼とうらふ法眼めまら
あり院上人ゆやよ入まのさ法眼さてられたり
んまありまよくまらるの衆よりんちやくす

け何てんぐ其の法眼の法眼まのんをまつけり
まの気よりけくまん法眼院建立して我門院
とありまふせまやと思ふん衆に成けまはる衆
衆は法意に衆やと證て衆今とて僧坊と法
らあまはる一院のうけく不目小事なりし
法眼くまん上人忽小入定りといふとらりて
そん乃お世ふ十六億七子弟衆の法眼まら衆
法眼の法眼も是法眼て何衆まら衆衆のあり
まてありまらまら衆大師の法眼入定り同じ
めらんとまらま衆やありま衆まら一院法も

まわくせよとて傳は後へと一もせ當念と感き
もくひ西へうとかり極ぶ里くこ進とさうり小上
人の不勤的まのさあうういゆくかろうら多んの
因小座し結人里或大座一人と一里寄て是と
引あてんととらよまがどんどわくの如小して
るうえんが力ゆくえうごう一鄰く全對のき縁
もらぐいさ難をぞ思くありきらぬ僧亦花もゆえ
ゆそれとあなしくしりらうあつたぬさな
きろ縁なりたむくか種あうけはあまよやととが
ぬさう一く其のふ勤の如くもんうぞげうり

ううらうちて思よとて大なるる縁ひらひしけ
て十方より毛とら門よさくるはぶての考大目
乃美言小ゆきてその身小あさうすあけけてみ
ちんふらさげさうい耐りくもんさ進んしそ汝
亦がう門痴の信あて全うら身よあこ家受あり
へしすとがまうまんの心をこされをまは一は
つぶて上人乃由ひさいよあうりて血の交やう
解く小思しうりたりされど一もとて大座在因
當ふどらととらひ者説く若く一ぞゆりきと氣
よりうくむび上人乃門説く百物ぬうき業一小

思ひて侍法泥の如くうと扱来へううして去云
ひまの道場と建立を其の宿素相辨て吉野
祿らふのあむ厚くえとれと權統のん試揮めり
うりふもこの試あくる事
と宿小光帝を吉野に御座るを全國の共く世系
由守えけき月束初ありきうへりよ及も守法
國乃武士も又下おらあうとやとさんを
かうりきりびるしとぞふ一あ月ふるひをい
金が橋乃城の中に入たしくうりよよそあう人と
るうりきりあふ十一月二日の約あるさよら川

乃橋渡り金づ橋とてとよぐ者あり思ふ
しうの城のまのま人の波よあふああう
と目張はけてもと思まけそまはあうす一と
まうり新屋とりひまうの吉野の帝うりあ
されうら論首とりも重よゆひ付くをよくはて
ぞありきり城甲乃人こ中うきて急ひうき忍の
小光帝ひそく小吉野へ陰奉返くを國の士率出
とせ素う圓不目小束初とせあらあるうゆのを
られうりよせ手いそとやてひ昌うくしけう美
と機中ふもやありねとやどかうの思へむ城の

内ゆれたまげの共其國へ小聲来て今よの世を
滅せしむるつめとらるゝひの心才！あままり
中ゆえうりふ判官たを川野村尾流島高野の
小あふくあく金ヶ橋のせめはありそ共其
助志けし源正盛とてすぎうん唐三人へ未金
勝へあ向つてそぬ山の城よりきんが去月十
一日よ新田乃人へ小園へおちられきりし時ぎ
のん唐がかくし垂うりし日記屋右衛門依の子
息武部大輔義治と大均とて養共とあけびと
日く報こすをうくききん先の判官は幸とすく

はそのたりにそふびりんをこそさそ我必
存ねるすいあしとて金が勝とてうさきねと
思ひけまは兄弟一ふ勝とてそとも南をうめ
と田わくそあられ同人とらん人あきうとゆへ
よ身成付とん成人の腹よなきて魁角うひひ
きん折若所を成さるべて治うりきん字部ま義
徳均照と天野氏弟大輔とよき合てよも山の難
候乃ぬでよあこめさこれきん友とひひさし
けりあし推とけあられ米屋さる者二門あくと
甲斐との門まうきんまきうりんとてひらんと

とひきりて美濃の邊りん乃善ぬとけあうく
とく若函キツキマフといりく大甲黒箱めてうきまんあわ
らどとあがゆそああ代のまん三りろこ飛カと
ぞれしがほろびて今の世二引あよるりねえ
城又わろあうんりんハ一引あゆく一とあうん
すまんと甲けまゑ天野民部大掾りらうんは固ヒツク
場エキと甲あまは一文字とけうけり一とよと
てひるううまはばありんまううあて下城あさ
めく六歳キ七ろとあ款る紀世は成わとえとてい
と文字一付て甲サカ字とけりけまは又ういりう

るう者の天小口う一人とそてりてあびとま
ううあうくううひたもあまけまてうりふ判あ
えとやてえていひ人こも野ヤんとう一とさびり
存まきりとうまう一を思ひえ常小滴サテと送ちやと
まのうせうくまこよひ月びを付くは天城城甲ひ
立ゆ由と治カタりまねく字初まえ天野之子あ
じとぞ同じきうううげ屋うくそ海山へ海く旗
とあきんと評定ヒコウジヤク忘々うあよ徳圃の軍機をい
海をもこり及なるのまが雨成へわけく小海り
きり城と一とめんるよ高越エチ持ゴち甲方の口こふ

切つて共士とて来て人と通う寸さうとて所用ら
てい乃成通う人々師モロ恭ヤサの判形シキヤウとぬきぞ通き
うりふ判友さうなれば判セキとたごかりてと成らん
と思ひと成るものごとよ行て成るの大直成る
をせん為ふそぬ山八人丈と百五十人成り
つゝ作關所乃此札と送りりゆ人ととりひきれば
師恭モロの執事シ山は入乃板スギと札と他ては人丈
百六十と成ると人しと書く判シとて来てぞおけ
うりふ此札と受けぬと下るる判形計と述しツキ
て上るる文字成みおをりきりり上下三百人

通と人しと書く成し字初まて野あひは小三山
ちの關所と成るるく通りてきりうりふ判友シ
山と海をぬく三人の弟はたよるるしひてや
て武部大將義治成たれとて十一月八日あ
日の社のおゆく甲斐れとて成あけけり種よ去
十月坂かより落下せり軍務あけりこよカシ隠
右よりきりが成事とて字くり月の關ありませ
事りきり種よくよ余務小なりみりも勝とて
百余務サシ指かてさるるその高湯シラユ為の味トウケ小園セキと居
て水園の乃と指さく首の穴おが城の乃と

小南家山のあまうりてげとましくそむくうらあふ
峯とほめ乃城よりうらうら共務七子余石つと終
うり、是い子万うけあひ乃軍は打まくる意あふ
とつてくらをらん為の用意也越後守陣森ハ比由
とつてまをそく正治せむ鶴白山の流流亦城
谷とゆく一さ大業一うらう一町と替すそぬ山
ふ打叩くして金う勝乃城とんやとくせむ一
とて終電加賀越後三ヶ國の防六子うきとそ海
山の城へぞう一むげあううりふもとつて款の
計とあむよむぞとて新なる今迄うと原うくら

三為河内口又里が圓の在家と一守を城守守
もしくひくそ海山乃城の少りくうら湯島れ省計
と月然やき洲してぞ並うりきうと箱小十一日
廿三日よせは六子余務源書小うんあさとを熱
ぞ山流八里と一日小越て湯島の高うと蒸うり
きうの乞し里そぬ山へあふ十町と流てを圓は太
河あり日書くみり小あゆと流くまね物目して
おをつきて矢合せとをせあとして月かうら在家
よつたり死て央とうき才流あさうめておむえ
あふんぞり○うりけううりふまう○くあんの

五

度より款と若そと一歩ひき入るはまのりふと
思ひけされそ款の報計は野伏三子人より
ろぬ山へわけ足ぐりの兵士百余人を右へ
めぐるりて時の考とぞわけありきる跡にびま
ありよせよた時の考小井がらきてありてふいめ
くお八字初ま紀法^{キセイ}由^{トクミシ}黨^{トクミシ}乱入てふく小大城^{トクミシ}け
ふれど物具あつる者もた刀とともすら城を
あつる者も夫とともげとふ尺あまりあり積^{ツモリ}りつる
書の上小井ん一とえうけどあつる一里おとま
とびのりもまおち入る足城ねんととれた町^{カ+}

の兵只とらふ福とまある魚のしとくまてりけ
ととあつる者三百余人うとあつるあは教とあつる
せうめしてわけのびうら人えうか物具と推て
引突とうとまりねえのちなうりきり

越前乃府軍并金が橋うらるせゆのり
水園乃乃あさうりてうらるは款のりむ金が橋
とせめん事一^{トキ}部^{トキ}織^{トキ}るらるうらふあつるえそ由山
乃跡と園中へまびうらねやうよせうかかあふ
まうとて為^{トキ}流^{トキ}る書^{トキ}流^{トキ}水^{トキ}陸^{トキ}乃^{トキ}は^{トキ}園^{トキ}の^{トキ}跡^{トキ}三^{トキ}子^{トキ}余^{トキ}
跡と率^{トキ}うく^{トキ}下^{トキ}一^{トキ}月^{トキ}廿^{トキ}八^{トキ}日^{トキ}小^{トキ}町^{トキ}が^{トキ}う^{トキ}さ^{トキ}の^{トキ}浦^{トキ}より

城乃新へ城移ふうりふげまどやう款小がも
足城うめさせていわううるうて同廿九日
小主子余勝ゆくをーよせ一日一報せあうかひ
てはあ小高窪ううてありきう新普光寺の城
とせめ申う寸ば城又ううあう者三百余人りけ
とり百姓人が首とらうてが山河東よりけう
ぶそまうり武部大捕義治のりきわひやうやく
を國小ううひきれを平泉寺豊原の府流南國地
國乃地彌治家人引お拘とうげ滴着とわせて目
こよ群集志きれ成義治よ小ぶ考うけるう評よ

のこ思ひ給ひきれとぎうん府城およを付て乞
程めてうき初まてはよおとやりささけるう地
氣多之ひりわやうんと申けまけ義治神りさお
うめ給ひくは亦あ官の軍に討勝て款とおやく
わろりりある事むらうふもさあるまは意
文とらうめまのううてあ家の人の金が勝の機
よとらうらめられく御座あまはさうそ共振小も
つらり我小を若うてんやまき原えうくおしん
らめと田やりまう同瀬島よのぞ免たうの志む
ん毛ゆりんとの路へむさかん府までうけりあ

其事^ニめくらく^ニ^ハ^ハ^ハ^ハ^ハ思^ハなれ^ハく^ハ^ハ^ハ^ハ^ハ間^ハ
あま^ハり^ハ小^ハあ^ハび^ハさ^ハま^ハげ^ハく^ハあ^ハく^ハ名^ハ遠^ハの^ハう^ハり^ハ立^ハ難^ハ
候^ハ候^ハは^ハる^ハ天^ハ氣^ハ乃^ハか^ハも^ハあ^ハり^ハ候^ハと^ハお^ハの^ハめ^ハく^ハい^ハと^ハて
感^ハ候^ハと^ハお^ハさ^ハる^ハあ^ハら^ハう^ハ候^ハ前^ハと^ハも^ハ立^ハよ^ハく^ハう^ハ字^ハ初^ハま
と^ハ小^ハ野^ハと^ハり^ハさ^ハ越^ハよ^ハと^ハ字^ハて^ハ好^ハ味^ハ樹^ハ也^ハ地^ハの^ハ鹿^ハ
よ^ハあ^ハり^ハて^ハげ^ハ百^ハい^ハと^ハあ^ハら^ハむ^ハん^ハが^ハて^ハう^ハあ^ハら^ハい^ハご^ハの
中^ハ小^ハあ^ハり^ハて^ハ考^ハ察^ハ高^ハは^ハ務^ハう^ハり^ハと^ハり^ハつ^ハり^ハび^ハ人^ハ丈^ハ丈^ハ
乃^ハん^ハ祿^ハ也^ハと^ハて^ハか^ハ務^ハは^ハ思^ハひ^ハ給^ハけ^ハり^ハこ^ハそ^ハ頼^ハり^ハ
け^ハき^ハさ^ハら^ハん^ハだ^ハや^ハら^ハく^ハ倉^ハり^ハ勝^ハの^ハう^ハら^ハせ^ハめ^ハと^ハら^ハん
し^ハと^ハて^ハ共^ハと^ハあ^ハり^ハめ^ハう^ハて^ハと^ハし^ハぐ^ハせ^ハく^ハさ^ハり^ハと^ハ書^ハの

あ^ハら^ハね^ハ目^ハと^ハ門^ハお^ハみ^ハあ^ハく^ハぞ^ハお^ハま^ハら^ハき^ハら^ハ正^ハ月^ハ七^ハ日^ハ
ま^ハふ^ハら^ハん^ハる^ハを^ハり^ハり^ハて^ハ同^ハ十^ハ一^ハ日^ハ書^ハく^ハ風^ハや^ハと^ハ
て^ハ天^ハ氣^ハが^ハの^ハど^ハう^ハま^ハり^ハを^ハれ^ハし^ハ里^ハ見^ハ侍^ハ候^ハと^ハ大^ハに
と^ハり^ハて^ハ義^ハ治^ハふ^ハ余^ハ人^ハと^ハ金^ハが^ハ勝^ハの^ハう^ハら^ハせ^ハめ^ハれ^ハ
る^ハよ^ハら^ハら^ハう^ハへ^ハう^ハ向^ハら^ハら^ハを^ハ指^ハ候^ハあ^ハら^ハま^ハの^ハ用^ハ意^ハ
と^ハら^ハく^ハ物^ハを^ハ乃^ハう^ハ人^ハよ^ハら^ハの^ハう^ハさ^ハと^ハま^ハら^ハ門^ハら^ハま^ハの^ハ
上^ハ小^ハら^ハん^ハと^ハま^ハと^ハ記^ハて^ハ山^ハ崎^ハ八^ハ里^ハが^ハ岡^ハの^ハ書^ハゆ^ハと^ハ
と^ハ針^ハて^ハそ^ハ日^ハら^ハと^ハ原^ハ色^ハよ^ハせ^ハら^ハり^ハを^ハら^ハ高^ハ越^ハ候^ハ也^ハも^ハ
と^ハの^ハ用^ハ意^ハあ^ハら^ハら^ハ事^ハら^ハま^ハら^ハつ^ハら^ハの^ハ津^ハら^ハり^ハ
也^ハ余^ハ町^ハ東^ハ小^ハ南^ハて^ハら^ハ門^ハら^ハあ^ハら^ハ乃^ハ用^ハ意^ハ乃^ハを^ハら^ハあ^ハへ^ハ

今川^源海^がもを大^カねとして二万余騎とす一^カ向^カ
不^カこよりひうそめて今やもすらとすらうけ
うの勢^カめをいへて一^カ番^カは宇^カ部^カ文^カ紀^カ信^カ濃^カ三^カ百^カ
余人とすよせて坂^カ中^カする^カ款^カ子^カ余^カ人^カ城^カ邊^カの^カ軍^カへ
ま^カく^カ上^カて^カや^カく^カ二^カ所^カの^カ款^カよ^カう^カら^カん^カと^カけ^カの
か^カ西^カの^カ軍^カする^カ大^カ勝^カは^カ村^カと^カて^カら^カれ^カ水^カる^カる^カ所^カへ
引^カち^カり^カぞ^カく^カ二^カ番^カよ^カう^カり^カふ^カ天^カ野^カ新^カ田^カ小^カ野^カと^カ七^カ百^カ
余^カ騎^カと^カす^カ紀^カ伊^カと^カり^カて^カ上^カ里^カを^カり^カよ^カ後^カ河^カと^カり^カ
ゆ^カう^カめ^カう^カり^カ所^カと^カ三^カヶ^カ所^カと^カひ^カ原^カぶ^カら^カれ^カら^カん^カと^カ引^カ
あ^カる^カ敵^カへ^カ城^カ邊^カと^カり^カが^カ防^カ三^カ子^カ余^カ騎^カの^カよ^カ小^カの^カと^カり^カ

て^カお^カう^カの^カよ^カ敵^カ小^カう^カり^カふ^カ小^カ野^カと^カり^カが^カ防^カ又^カ遊^カ立^カら^カれ
と^カ宇^カ部^カと^カ一^カふ^カあ^カう^カん^カと^カを^カま^カる^カら^カう^カへ^カ引^カ上^カ
々^カら^カと^カ里^カ見^カ伊^カ賀^カと^カり^カの^カ防^カと^カて^カさ^カう^カり^カぬ
せ^カう^カて^カよ^カい^カ合^カ小^カす^カく^カま^カれ^カう^カり^カ款^カを^カと^カ大^カね^カよ^カと^カ
と^カて^カけ^カま^カれ^カ自^カ余^カの^カ義^カ兵^カと^カり^カた^カり^カす^カお^カら^カと^カり
と^カめ^カて^カう^カう^カん^カと^カけ^カら^カう^カり^カふ^カと^カぎ^カう^カん^カ所^カと^カ
と^カら^カと^カて^カ親^カ不^カ着^カふ^カて^カ討^カ死^カせ^カと^カる^カ所^カの^カ防^カは
と^カり^カう^カの^カ備^カと^カき^カ敵^カと^カと^カと^カん^カと^カて^カ共^カ二^カ人^カう^カり
と^カり^カ款^カの^カ中^カへ^カま^カり^カて^カり^カる^カん^カと^カて^カ見^カて^カ判^カ定^カ
か^カ身^カ林^カ次^カ房^カへ^カ送^カき^カん^カ里^カん^カ同^カ令^カ身^カ兵^カ存^カ助^カ志^カけ^カし

源正盛^{タケノリ}とて三人先成見て遠^によおらせり
きんぐたよ討死せんとなせぬ^{ゴサ}きんぐか
あり目よあうま^{ゴサ}人之日来^{ゴサ}三つひし素下と
い月の箱よ忘きつぞ我お二人お死せしらん
水代のみけゆくあらんを思ひこもらん
なかりたるのひひうひさよとあうら
よ中とめきん同三人の者たきふえと思ひて
かゆよまきらる大搦り款よ中とを^テ後られ置
見^{ツリ}仇生さうん唐三人い一ふゆくううれよきり
らと承り^シ深書^{セツ}を^フ見^キけて^キ書^キ獲^クふ^コと^ヒひ^ケか

まの^ス救^{コシ}割の合戦ふ入^カり^ル場もさくうあひ
つうまきねとぬえんとまらふかつさひひかんと
まらふまらぬとぬえまらぬか^ヒと^ヒ列^ヒせ
敵とまらぬ救済と^ヒ敵^ヒく^ヒ敵^ヒの^ヒひ^カ共^ヒえ
矢^ヒ指^ヒ具^ヒと^ヒ控^ヒね^ヒあ^ヒり^ヒう^ヒて^ヒ一^ヒそ^ヒ先^ヒ目^ヒ新^ヒう^ヒま^ヒる^ヒ
乃^ヒ軍^ヒよ^ヒあ^ヒり^ヒく^ヒと^ヒて^ヒう^ヒり^ヒし^ヒ共^ヒを^ヒた^ヒと^ヒた^ヒと^ヒ皆^ヒあ^ヒぬ^ヒ
うまとつうがうの世よたあま^ヒひ^ヒあ^ヒり^ヒ先^ヒ成^ヒ小
不定乃人同あ^ヒら^ヒる^ヒ身^ヒ命^ヒ成^ヒし^ヒ寸^ヒ切^ヒら^ヒんと^ヒて^ヒ平
一^ヒ龍^ヒ葉^ヒと^ヒけ^ヒく^ヒ里^ヒを^ヒま^ヒる^ヒ世^ヒの^ヒら^ヒう^ヒと^ヒう^ヒき^ヒん^ヒ交
しを^ヒ深^ヒま^ヒり^ヒけ^ヒき^ヒ

うりふ判友老母ラウホの妻付ていゝいゝあゝとさう妻
も種ふイシ數軍の共たそぬ山へぬきまはるおひ死
人の數とあつす小里見侍候ちうりふ先才とひ
乃七郎が御討死するその六十三人を守跡うり
梅り共二百余人也子い父おわられ弟い兄り
をられとていゝいゝもん勢家こふうりくきり
されたうりふ判友が老母のふこりありけりが
あんでひうりめり氣多えりいふおひ大御義
治乃およ弟とびお所らがへびふていゝそのたが
不フカ是とてしと里見をとういせまひりせとひ人

さしを思われいらめと由ん中をいゝうりまひ
らせていゝタシ但氣と足るうり判官が先才の御書を
けりうりあゝとてしと里見とあゝいゝ小今一あが
うりてしとさもやろ有るうりいゝお小判友うり
とひ三人乃者里見殿の由候中跡りの弟三人い
大御乃由タ為ふりさ跡と之候なけきの中此より
いゝとてしとさもやろ有るうりいゝお小判友うり
大事と思ひ立ぬわう上い百子をひ子たう討
まひたるけくおさゆといひり次と跡と流して
いゝ自しとあゝとぬとらんとすしめありけ

城即くあく命と全せんすの事をくあくるう
然とソノ後ある道の小やとま城あくるう記と
すらんや必悉乃始小あふふつとてていえい
あよさうちひそくよを救済されて城と母ちよ
かり終めきれちち多く忽よ討死あくる城の兵も
なすりあふれあふれあふれあふれあふれあふれ
とんよあふひきりあふふていえいあよさう二
人の智^チ他^カのみるうごを叩くうんと正らよてう
とむもとつ付てううんとすり幸あさうり也てい
えいあよと母をれてあよさううよ向く尸あふる

キウシ

向悉三藏のうかじごをそては二人のたよはけ
ありさまは死あくる歌とあざびうんとあくる命
とひきてみるうご城あたるんくりあまうり
うりあよあよさうううあ死ハ一心の養よひふ
よさ里生あ百^{ヒャク}乃智とあ^チと甲よ全し然ども
せ城をてううとすていあいらうげよま
難^{ガク}き小付く命と全人しあ色ハ屋とさ小付く
討死あくるあつとりふ小あよさううあひく
さうよさく寸さうと謀とあ^マううあ人しとてあよ
さう我子の三藏よなりさうと^{キウ}回色のみあしこ

るりと披露^{一ロラ}あつて毛とりいさう人ていあいあま
のまかしこ三よまらうと我子ありとりひて約夕
毛とやうやくまきりうくてあよまきうあ山^イ峰さ
すま^イり小のつまていえいあてうとん^イぶりこよ
初^イ之^イ海^イ来^イる^イ色^イの^イ由^イと^イり^イと^イん^イ程^イを^イん^イと^イ並
て毛とゆらうさ付ていえいまきり^イの^イ後^イい^イえ
智^イ伯^イが^イた^イ太^イよ^イつ^イ人^イて^イそ^イ初^イ初^イと^イ忍^イり^イよ^イ所^イわ^イよ^イ道^イ
の^イ國^イ成^イう^イら^イり^イん^イじ^イう^イ人^イ也^イと^イあ^イま^イ里^イ遠^イ小^イ君^イの^イ
とく^イけい^イと^イず^イよ^イ智^イ伯^イよ^イま^イま^イま^イま^イ結^イ人^イ子^イり^イ子^イ雲^イ
と^イ後^イあり^イあ^イよ^イた^イり^イや^イと^イも^イら^イう^イと^イた^イよ^イつ^イ人^イじ

事一^イ成^イら^イふ^イあ^イ小^イ亡^イ國^イの^イ老^イ人^イの^イる^イよ^イま^イ道^イに^イ賢^イ者^イ
成^イた^イも^イか^イら^イん^イや^イ老^イ者^イ我^イと^イして^イた^イう^イ道^イと^イゆ^イり
され^イて^イ亡^イ者^イ智^イ伯^イが^イま^イり^イこ^イ三^イ歳^イ小^イる^イあ^イら^イ小
あり^イあ^イよ^イま^イら^イう^イが^イや^イう^イり^イく^イあ^イく^イ深^イき^イう^イく^イし^イを^イま^イ
あ^イら^イ不^イ日^イ是^イ具^イ小^イ志^イま^イり^イ老^イ者^イ毛^イと^イう^イま^イり^イ世^イ終^イく
道^イ國^イ成^イ永^イく^イ道^イと^イう^イあ^イめ^イ終^イ人^イと^イぞ^イり^イう^イり^イう^イ
て^イう^イと^イん^イ毛^イ成^イす^イ道^イの^イ後^イひ^イく^イさ^イて^イい^イて^イい^イえ^イの^イ偽^イら^イす
し^イら^イは^イ小^イあ^イら^イん^イと^イ思^イひ^イま^イら^イと^イ信^イま^イく^イて^イい^イあ^イい
小^イ成^イ成^イす^イ門^イけ^イく^イあ^イら^イを^イく^イ石^イ所^イら^イり^イま^イま^イり
ま^イて^イあ^イあ^イよ^イま^イら^イう^イが^イ如^イく^イし^イあ^イり^イ不^イ成^イ終^イ終^イす^イく^イ教

子孫乃共滅さうし居りて是をめでしとらむと
正んあよさう^{カキ}通ておらりし其をたて末ひび
乃上るる三歳のみなりことさうらうと七君^{ゲン}
ちもくろさう子運^{ウニ}命はさくして潔をぞ小
のりまねとよむりりてあよさうさうさ
切と死よきりてうとん今より後いさう子孫此
代と^{アツク}いふきんとさる老いあくとさうふひ
て孫ていえいふとをうと利大^{アツク}福とあへさ
宿^{アツク}成さめて國の政と居さうとらむあ小智
伯がさうとていあいがあよひとさうらむ

ていあい忽よ共と^コ殺して三年が甲ふとらん
とむらりし居る小智伯がみるご小^コ趙國とた
まさせりば大切併ていえいさうけぞ我が
あよのり^コ福とゆくりやまくと生とひさあ
むあよさうこととさふとらりし道よあさうとて
あよさうが^{ミツラケシ}あつとと^{コチ}高しおき居るのおゆ
自^{ミツラケシ}劔の上ようて同若^{コチ}あぞむれあうされ
今乃うも川とぎらん房と封死と右のていあ
あよさうが^{コチ}あつめととあうたりひさう
あうさ^{コチ}死つ織落事

合う所の城すたうりふううーろせめとこも命
ふけて釣れしよ判官討まけて軍務をこぼく
ううれぬとぞくせれも頼あましく城こそ細ホソシそ
老くせう目こよはと共ラウ頼よりくるりままは
戒ハチウラ魚とつりえうえ城うまけ戒ハりそる城
おと目と過すあうーの頼そか頼の頼よ命イナ城
所さく軍とえあをれあまうりよませまうりままは
まうの所も城始とて流大均乃立られうの頼
越乃名もたと毎日二ニ進キ所くうーあろあく者乞
とそ頼夕の食ゆけあてうりけうあま小討てえ

うーろせめとこも命とてあひ城下日在あう人
こし熱大均乃兄弟むそろよ城と出あうて頼
山へ入を流ひふ力乃軍務とりまがうれてあま
と進ううの進ゆ人ーと面こよすうめPうれ
けまはを小もとて新田乃中均義貞ロキ殿右藩門
依義助トウ洞院トウ屋ののま冥世サマ河橋ヨ左を越人惟頼ヨシ城
兼内者シゆく上下七人三月又日の頼守計小城と
あひわけせくそ海山へそ落所うせ給けりウラ生
守助ウカツまゐあまううひてと一なる金、橋八
向く先香乃そらとまうめ城中の思ひとそせ

めんと極の志めん城めつしきね東風厚り
やくま門の小城の書え村さきまは國
こ乃防えよせよ小加て共十萬騎小あままり義
貞の勝ハ見ゆふ百余人の斗いけけきたる
相具ももうくしめし祿じとやせま一りくやせ
ましとあよとまて昨日あまりと道しきく極小
倉り勝よけともやるとも皆らひ遊まく食度と
ふりり十日計小成よけまは軍務た是今日
是ともさらの守城よけり善小大自のせめは小
有き人共たき城あちりお小東くは城いり共

極ラウ小つまりてると一合いやうん初ハシメはハ城中
よる乃は五十七ヒキと有らんと是くて常ツヨはゆ阿
ひ成し水成けさせおとしはしが金銀あ一疋も
引かす莫とほり及あま一せめせめく見とく
やとりきねは法大乃然る一と同ろく三月六日
乃ウラシ抑刺は大手カラス搦手十万余騎同時は切キリ居の下殿
さしと水ぞ付うりあハ城中の共たもとあせりん
為小東戸乃造造りあめさかうまはた力とつふ
るさ力とるくらとひくもさ極えさけまは共院
小原さう乃士小のりりるいの陰カチよあ用りて息キ

つゝ右より汁也よせをたばむ物とてさまじ
しと城よりりてけき目の中よせめ申とらん
とてらんが井さうそぎと列のけるいとおやふ
里と三堂うら久あひ二の本戸もぞせめ入きり
ゆり右灘二人新田越後守のおよきくPくち
城中乃共共救目のつうまよそ今あ矢一とを
まうくあ仕ぬいりね同款とぞふ一二の本戸と
取らりてせめを付くい也りくと思ふたうあ
つう守まよとれ小船小めさせまのうせり門を
乃浦へえおとまりとせいり自余の人とあ

一雨小の雨りて自害^{ニガイ}多人しとて存り人
種り救ふせめはへお向く親う人いり見^ミ若し
明らん物たよはは海へ入させられい人とPて
直前城立きんがわうり小流うまきく是えんよく
あひしりきねと二乃本戸の日記よ村らうれ
伏^フら死人のえくの因^シと切くせ余人の共た一
はけく食して是城力あてぞ戦きく河野^{ニゴ}海^ゴは
さる欄子よりせめ入款とさうてす町計戦きり
がしいとも^{セイリキ}情^カつきて^{フカ}深^カあまよおひけま
せめはと一是も引きりぞり守城二人と切く

同枕小ぞ伏すりきり新田越後守義隆アキの一のま
乃由およきと合戦の換今ハ是迄と是迄ハ我亦
力なくら夫の名残惜ラシびぬめく作昌ジカイ自害仕らん
とらんまては上換の泣るるうとハ款テキの中へ由
おひたうるひまのりうまうと乃更ハよえゆり
只かやうゆく淨土あらるうとこそ存作人と
されけまは一乃まのりよりえ由あらゆけふ打
急ウツせ活ひて主上帝前へ還ウツ奉るりし時これと
えて元首ウツ乃物と一汝とえておらうの片うし
じそれこらううくしてえ首たえ門更城名んや

されとまら命と白紙のよふまめくめくあをクワラと黄
糸ヒ乃下小じくワんと思ふ也物自害とけり
よあうらうがよき物ぞと物れをまは義隆アキ感涙
とあさうてかやうよ仕まのゆくはと尸をウキて
寸刀をぬきてゆらふふおる成し丸の眼ウキは所さ
まくね乃りさのあまホマ骨二三まのけくかさ
ぬかりを刀とぬきてまの由およさう一盡てう
あうよ感くぞ死よまう一のま屋うくを刀と石
されと雪境まら小所ら口よ血あまらふ人里け
まは由家乃徳ゆく刀の片うとまうくとな

まゝに世路の六書乃しくくさるる由もこへとあり
りし由ひの乃のありまつさ立發の柵の上小
伏うせ路の強大吏の府里見大助時義氏固ら
一氣比汰三島大吏氏治大田そのの法船以下由
お小ひきんがのびさううも文の四世仕らんとて
同着は念佛とありて一方は皆ううとさうるを
てて海上のあり者あり共三百余人なるひふさ
ちぐんくりのやがよのりありありと氣比大吏司
考うるえ來力人小とて建ててといまんの達者也
きまはるまゝと小船のせまのううさくありひえ

えるけきたつるよとをのがあこおひ小ゆひ付
海上の余則張とよそてめづるきの浦へそはけ
まのうせきんをさうる人吏となりけまひひ
そらふそぬ山へ入まのうせんまのうと安しり
ねへりしよ一乃文張始まりうせく城中の人
こ浦ら才自書とん敵小我一人あげて余張いさ
うけは法人乃物とひるるる一と思々る同書
まとのや一げさるる浦人の敵と形をきまのうせ
乞る日本國乃主小張せ路ふるさ人して後らせ
路ふぞりふとあそ海山の城へ入まのうせく

られよと申すくめとくぐりさきの浦ウラよりぬえぬ
申の浦上頭をよき浦と称三郎大夫が自害志て
伏せりて上はまづうり我首ミとりきけりて一カ片手
小川うけ大なるぬきよぬく死小をり立トキ波河
波さうりふ藤の矢嶋七郎三人の一雨ぬくうり
うり見とて思の上は立るひて居りてをりて
よ松田長門守ナカト長く松新田家の此一家の運ウシあり
うてコトシキ松田の法と推カ之波り寸討死に人けり
たそり大拍先舟松山小波座ありキシ運ダも三四人
色とて可カしこ小波座あり上の我ホ一人もりさ

波之川用小あゆんすりてエイ波代の忠切ゆと侍
らぬゆとりふさういえなく自害志月まで款よ取
けせよせての用ハゆりてをりさうせゆ人あ
やとゆりきてうんとカをまは三人のまの左松
田がゆト付て遠乃りそカをトをト波トとけて
軍町計行うまはりそらゆ波小あうりて大ふり
うりうり思あなるあり言カそらゆまうりゆりま
あるまとしては人たよばあなれ中みゆくきて三
目三教と道しうらふ乃中カとゆりてをりゆ
去瀬ハ色色を松本戸はふうりてのどくもけり

よの建が三番より流るく血どうけくのこり落
けりあましおよ伏しる死人の因^シ切くくひ皆
人この自害してせん迄と我まうとあ間^シ六席左
馬つらり下てり川と釣と合我とけし給ふぞ
大ゆいもや他自害はけらぞやと尸けまけりさ
やうらげとせえ死あんとら命減まうやと家
の大約のあうりへ海をれあてよわらんじり款
とともようちびんて死るんとて六十余人の共
た三の本戸津岡城小打おせめ口一方のよせま
三子余人減^ラ遊まうく里を款よおまうりりてき誠

ぼちが凍へぞをつきあなりふん減まやけりよ
因^テ城よりおあうう志た此^テ禰こううせう
まのちくよの常の人よ海をれけへくもなうり
けまけり人毛と見ありてとら海をらる一人も
徳款小合まのうくあく雨くあく時討まより
まぐく城中ふくまら病の勝る百六十人そ中よ
降人小威くうすう者十二人器の中よ叩くれ
てのうきまら者五人そか百五十一人ハ一城よ志
がいあくうか戦場^セのたと歳ふたりうまけ今よ
あつてを然^ラ盡たび雨よ毎く月くりりあううき

義貞義助二六ハ昨自乃々れ種小自害あつりし
と云乃云夫々やく水の肉ゆくらと云う小せり
と一とりふささいざ一とゆられをねてさてい
忘るいゝ此を乃理ありたりとて毛とりとひり
小及びすさてしとそぬ山ははもろくお歌るけ
まは海人よそいざんすらんとてあざ一が種を
さうとさいけき我勝と歌念とよほつりまてはよ
害んとなこす人こをほゆけ皆主常此女つさ
小あひか一やくせりあくま之久か一あつま
よとろつる事一也新田越後守義政等よ一

ぞく三人をかひの首七とりとせまふと
より興コシまメまのうせり東初へあ一のがせま
法大の事一の神皆むあぞ思えつりきり越後
守義政乃首とほ大治とほ一とくりん小つけ
ら新帝は臣位シイの初より三年の君は下比刑ケイ
越とこなるまねは也いすこ河東の地とつひ大
志やあもつけをこなりまさう先は首とほゆり
事一まりくま人のあらん先帝ありその始さらの
掃勅助カモシ政カサい一田左を助監貞若が首越後され
うり一を不若乃例と一とあがゆまと流人の意

見^テ在^ル者^キ其^レ花^ハ是^レハ^ハ朝^ノ款^ノの^トり^リ異^ナう^キ義^ノ貞^ノの^ト名^ヲ男^ト
 介^スれ^ルて^ハ作^ルわ^ル小^大務^トと^ハ後^にされ^ルを^リ表^ス云^ハ京^朝
 へ^ハ還^ル内^感を^レ以^テ後^にく^ろう^の内^而と^うら^んて
 と^ハ務^ヲ一^のま^レ内^首と^ハ行^ハ練^ヲ林^ヲの^名老^ビ
 そ^う國^師乃^先へ^送ら^ル家^法う^うま^いの^儀式^成列^シ
 行^ク乃^リる^まて^ハ走^ミら^レけ^ル後^の内^なけ^き甲^ニ
 甲^之と^ろう^也び^えら^レけ^ル後^の一^文小^乘り^そめ
 務^ハ一^右の^内に^けく^し世^よう^らひ^なき^事と
 一^乃ま^まぞ^ふう^わり^あり^めされ
 て^深ま^乃内^小ひ^とと^うら^う世^務ひ^しな^内才^學も

乃^とま^くう^うん^も世^小ま^まと^まる^く地^う一^とり
 乃^とま^ま一^あく^世務^ひあ^んと^世乃^人財^物さ^あり
 且^し一^關東^乃う^うら^ひう^て思^ひの^外小^務二
 兼^院乃^兼一^の内^子表^文小^う一^世務^ひう^う一
 乃^とま^小乘^つふ^もさ^人こ^を皆^重成^うる^ひ文^之世
 甲^第打^あ不^まう^う内^心地^一て^竹蓄^者只^約款^小
 内^心成^よせ^風月^一思^ひ成^りこ^まり^め務^小打^首
 小^付あ^る内^務あ^くあ^また^うて^興世^さ世^務ふ
 乃^とま^ま一^うう^小付^てあ^りる^う一^の人^比
 内^心も^ある^うと^かく^と傳^られ^る内^心と^並さ^せ

終ふ迄をわづとぞとぞしよはんよそむりろを
なすりあるよやもとと思ふれつるは氣文を
ましく共ひつりのこほ月と送りせ給ひをく我財
開白左大佐の家ゆくまよ上^{カン}達^ダ部^ノ人^ノあまの
の園ありて急命の者きんよ洞院た大母のおされ
きりをく急よ源氏乃うんそくのまははひもめ
がまき^{ハシラ}相^シ不^フ取^クられくびし成あうへ給ひ一よ
雲のくまあつる月乃成よゆとあうく招^{サシ}あうま
このふぎあうでもまのひくべりきりとしてまら
このげく招のぞまうらうがほきいづぐくらう

うけくふがやうする氣文りまうらうまく菊を
通してぞ書ありきつ一乃まはは成は流せつま
てのうらうくはんよりまねまはは成あうま
るよまき思らふまうくさむ方まわとして巻^{マキ}ぬく
は流せらふまははん史よまうくさ流ま^{ハカン}晋^{カン}漢^{カン}の季^キ
史人^シん^ンせん^ンでん^ンの病^{ヤメ}の^{ヤメ}本^ホよ^ホ外^{ソト}く^{ソト}まうく
給ひ一^{ハシ}成^シ成^シ帝^{テイ}の^ノま^マよ^ヨ一^{ハシ}通^ツまん^ンらん^ン者^{シヤ}と^ト流^{リウ}
給しよ^シ史^シふ^フ志^シ人の^ノ面^{オモ}影^{カゲ}の^ノ煙^{ケムリ}れ^レ中^{ナカ}よ^ヨ思^{オモ}く^クう^ウりし
と小^コせ^セ志^シ小^コ可^カむ^ムて^テは^ハらん^ンせ^セつ^ツま^マあ^アう^ウ反^{ヘン}招^{ショウ}ひ^ヒく
まうらう^{マウ}らん^ンと^トあ^アう^ウら^ラう^ウせ^セつ^ツび^ビと^ト成^{セイ}帝^{テイ}の^ノる^ルけ

まほひきんをぢ小理りと思ひあはせ給ふまれ
あはれもろりまのふゆもひやま滅の名をきてあ
あえ世をばあの中のとつとて思すつらま
るりまをハそを何まのあらしあろぞや遍照僧
西乃音のあはれとつとゆきが都して音の振あ
ゆきまは実すくまきまへんまよりけな女と
思て流よんとうごのすがしとひしを敷
あえまのあはれとて思控給へた程あやあく
まのゆあはる胸まろりまのあはる記取物思ま
滅きまはしへ乃文しとるま人とあらんあく

まほ目成さふをめぐらされまて時この原
ま付く事しとひ通し給ふゆ音振へま一材面
のさる箱乃のあはれとて思まはるま地小も
思るま守世中ふまの人ありと流く人あくゆん
小町らしとままき乃原りまひつ風のあはれま
ねるま又まゆふ人とあはれ計るまゆんあてま
しあつあまのままむままよるませはるまごらま
うらまきままはまあはれま守ましあえ給す
右のまらまきま物語あはれままのあはれまま
まままれけまはれままらまあま思あはれま給へん

せめく酒心とやろ方をわと酒車小百を暖炭^元
うす寸のまへまゝで酒を流しうらし河の川
あど酒多あよびすもまじゆとなく酒よせうよう
せうせ流ふめを着るり平中酒のしひせうとく
そきせう一奉一之あままるる酒小思なぶられて
いのかとも神やいうせんけどのこ

さうらう河のあうさあひと
と急いせうせ流ふ時一をあま一村毎の酒新酒
本乃下露小うらねきて酒神をあがれうらよ月
えそや書ねとP書きて酒車ととくろうて一

糸と酒へるうせ流ふ小誰がすむ酒とけあうね
かさよけけひりりり小松あひて幸久あく恒^三
あひしうら酒乃酒さびしげるうらよらとけ
さくせいりいととそあうべうらあや一やりの
るらんるらんとうりてよ酒車ととどあうせ
て遙よ見入さうせ流ひうまらうら人ありたあう
さう神よて書ねあそらうら月うけの時毎に雲ま
より月のくとのりきおそら小みとと書ね
浦さあけて幸乃酒二八汁暖女房のりふりり
あくあくやうらうらが秋の別をととよひとと

らんぼんすてぞきせらんらんごどらんごどく一
あぢ^{キヨシ}らりきうよくらん小おのり子^{ゼイ}方^{ゼイ}きささき
しらんを替へ^ニ毎の^ニおら^ニ兼^ニ小海^ニの^ニひ^ニは^ニく^ニお^ニま^ニは
あ^ニう^ニね^ニび^ニう^ニあ^ニ小^ニ油^ニ志^ニあ^ニり^ニ計^ニし^ニて^ニせ^ニう^ニく^ニう^ニう^ニま
油^ニ目^ニを^ニあ^ニや^ニま^ニは^ニく^ニく^ニと^ニ油^ニ境^ニを^ニらん^ニ小^ニは^ニ種^ニす^ニく
ろ^ニよ^ニ油^ニん^ニと^ニあ^ニき^ニく^ニあ^ニゆ^ニえ^ニせ^ニあ^ニて^ニあ^ニひ^ニ見^ニも^ニや^ニと
う^ニひ^ニう^ニあ^ニり^ニと^ニあ^ニは^ニひ^ニつ^ニら^ニ小^ニせ^ニあ^ニま^ニお^ニも^ニた^ニり^ニ少^ニは^ニ種
あ^ニて^ニや^ニう^ニま^ニら^ニう^ニう^ニけ^ニて^ニい^ニり^ニん^ニう^ニい^ニさ^ニく^ニそ^ニ思^ニく
う^ニり^ニあ^ニら^ニ油^ニん^ニ地^ニを^ニり^ニう^ニの^ニま^ニて^ニう^ニと^ニく^ニあ^ニは^ニい
種^ニ小^ニ油^ニせ^ニあ^ニら^ニん^ニと^ニ油^ニ車^ニう^ニり^ニあ^ニり^ニう^ニせ^ニあ^ニは^ニひ^ニく^ニつ^ニさ

山乃松の末^ニの^ニけ^ニま^ニま^ニう^ニう^ニせ^ニあ^ニら^ニん^ニと^ニ女^ニ房^ニあ^ニら^ニん^ニ人
ありと^ニ物^ニま^ニひ^ニし^ニは^ニま^ニて^ニび^ニと^ニは^ニま^ニあ^ニう^ニの^ニあ^ニく
り^ニう^ニ小^ニう^ニう^ニま^ニせ^ニて^ニ肉^ニへ^ニあ^ニは^ニれ^ニ入^ニね^ニり^ニや^ニも^ニす^ニそ
の^ニあ^ニら^ニう^ニあ^ニら^ニる^ニ面^ニ影^ニ小^ニ又^ニ立^ニ出^ニり^ニま^ニえ^ニや^ニと^ニそ
立^ニや^ニま^ニら^ニり^ニせ^ニあ^ニら^ニれ^ニと^ニあ^ニや^ニけ^ニら^ニう^ニ油^ニ油^ニ傳^ニの
み^ニう^ニふ^ニし^ニま^ニら^ニう^ニす^ニう^ニあ^ニら^ニと^ニあ^ニら^ニん^ニと^ニあ^ニや^ニま^ニら^ニれ
ま^ニは^ニり^ニ油^ニ油^ニあ^ニら^ニて^ニま^ニあ^ニら^ニん^ニし^ニう^ニて^ニま^ニ還^ニ油^ニな^ニり^ニね
あ^ニま^ニ書^ニう^ニり^ニし^ニう^ニう^ニら^ニ小^ニう^ニ小^ニ油^ニん^ニと^ニあ^ニや^ニま^ニら^ニれ
し^ニ油^ニ葉^ニ也^ニう^ニて^ニま^ニの^ニま^ニと^ニ油^ニ境^ニせ^ニら^ニま^ニき^ニく^ニう^ニ小
せ^ニん^ニと^ニ油^ニし^ニひ^ニあ^ニの^ニと^ニせ^ニあ^ニら^ニれ^ニま^ニ理^ニり^ニう^ニみ^ニそ^ニの^ニり

よりいひしすかなんぬ氣文よんくまううす
が河^{コハ}中^{ナカ}はあされさうりうり小^コ常^{ジョウ}は^シ舎^ヤよ^シ常^{ジョウ}り
後^{ノチ}二^ニ東^{トウ}中^{チュウ}均^{クニ}為^メ冬^{フユ}り^リ月^{ツキ}そ^ソや^ヤ後^{ノチ}の^ノ河^{カハ}人^{ヒト}さ^サの
邪^ヤの^ノり^リる^ルり^リし^シよ^ヨひ^ヒの^ノま^マの^ノ月^{ツキ}又^{マタ}之^ノ塵^{チン}境^{キョウ}せ^セま^マり^リ
く^ク思^シる^ルさ^サう^ウる^ルも^モや^ヤと^ト違^ヒあ^アは^ハり^リく^クや^ヤと^トさ^サ事^{コト}
と^トて^テも^モ傳^{デン}ら^ラめ^メま^マは^ハ女^メ房^{ボウ}の^ノ形^{カタ}と^トあ^アり^リて^テ之^ノを^ヲ
今^{イマ}河^{カハ}人^{ヒト}右^{ミダリ}大^{オホ}長^{ナガ}乙^ヲ歌^カの^ノひ^ヒと^トあ^アゆ^ユく^クい^イら^ラと^トは^ハ
大^{オホ}右^{ミダリ}大^{オホ}長^{ナガ}よ^ヨ中^{ナカ}に^ニは^ハけ^ケる^ル未^ミ定^{テイ}大^{オホ}長^{ナガ}乙^ヲの^ノみ
ら^ラけ^ケゆ^ユく^クい^イら^ラ切^キは^ハ思^シは^ハれ^レと^トく^クあ^アの^ノ舎^ヤ小^コ
中^{ナカ}に^ニは^ハて^テは^ハて^テい^イへ^ヘを^ヲ結^{ムス}ひ^ヒく^ク玉^{タマ}う^ウま^マの^ノ原^{ハラ}水^{ミヅ}を

あ^アら^ラう^ウ河^{カハ}人^{ヒト}の^ノ事^{コト}も^モて^テい^イへ^ヘと^トし^シ
せ^セは^ハ又^{マタ}例^{レイ}あ^アら^ラは^ハ河^{カハ}人^{ヒト}の^ノけ^ケは^ハ打^ウ急^{キウ}ま^マを^ヲ結^{ムス}ひ^ヒく
屋^ヤう^ウく^ク今^{イマ}新^{シン}を^ヲて^テい^イま^マて^テり^リう^ウつ^ツん^ンの^ノ舎^ヤも^モ人^{ヒト}し
と^ト右^{ミダリ}大^{オホ}長^{ナガ}の^ノ方^{カタ}へ^ヘ結^{ムス}お^オされ^レを^ヲま^マは^ハ公^{キョウ}歌^カ系^{ケイ}と^トり
さ^サら^ラめ^メさ^サて^テ教^{キョウ}書^{ショ}の^ノ人^{ヒト}あ^アま^マの^ノめ^メと^ト南^{ナン}と^ト東^{トウ}向^{キョウ}
中^{ナカ}に^ニは^ハて^テは^ハて^テい^イへ^ヘ入^イせ^セ結^{ムス}ね
あ^アら^ラう^ウの^ノハ^ハ今^{イマ}新^{シン}さ^サま^マの^ノ舎^ヤも^モ人^{ヒト}し
傳^{デン}計^{ケイ}あ^アら^ラう^ウも^モん^ンあ^アら^ラう^ウの^ノ舎^ヤも^モ人^{ヒト}し
あ^アら^ラう^ウの^ノ舎^ヤも^モ人^{ヒト}し
常^{ジョウ}より^リ之^ノ真^{マコト}せ^セう^ウを^ヲ結^{ムス}ひ^ヒく^クあ^アら^ラう^ウの^ノ舎^ヤも^モ人^{ヒト}し

たゞしく小内^{サカシキ}通結りせ結ひあはよありしをい
あゝあひ^ミおねまも^ミお枕^ミ成^ミりしあけさせ結へん
人皆^ミあつまりく^ミおも^ミも^ミぞ^ミ小内よ^ミありあり
乃^ミお中^ミ均^ミふ^ミも^ミて^ミお^ミあ^ミさ^ミり^ミけ^ミま^ミた^ミそ^ミま^ミは^ミ栗^ミ肉^ミせ
さ^ミせて^ミお^ミ女^ミ房^ミ乃^ミす^ミも^ミ々^ミ酒^ミの^ミ臺^ミへ^ミあ^ミひ^ミ入^ミせ^ミ結
ひ^ミて^ミお^ミさ^ミの^ミ際^ミより^ミ見^ミ結^ミ人^ミも^ミと^ミり^ミ火^ミの^ミ如^ミど^ミう
る^ミら^ミ小^ミ籠^ミを^ミみ^ミら^ミお^ミ籠^ミう^ミら^ミ扇^ミ風^ミ引^ミまり^ミお^ミ籠^ミさ^ミも
せ^ミの^ミ縁^ミも^ミせ^ミね^ミ神^ミよ^ミう^ミら^ミあ^ミが^ミま^ミは^ミ只^ミし^ミ人^ミこ^ミの^ミよ^ミも
う^ミら^ミけ^ミく^ミ秋^ミ乃^ミあ^ミん^ミう^ミく^ミお^ミ籠^ミく^ミり^ミが^ミお^ミり^ミこ^ミぶ^ミけ
ま^ミね^ミて^ミら^ミが^ミま^ミは^ミこ^ミり^ミあ^ミら^ミむ^ミん^ミの^ミま^ミら^ミま^ミは^ミより^ミ小^ミが

やう小内^ミの^ミう^ミら^ミう^ミら^ミが^ミま^ミは^ミお^ミ籠^ミと^ミ少^ミく^ミめ^ミり^ミ籠^ミの
あ^ミけ^ミが^ミの^ミ風^ミよ^ミま^ミら^ミう^ミら^ミ柳^ミの^ミ夕^ミれ^ミ氣^ミ多^ミあ^ミま^ミ書^ミた
籠^ミを^ミ乃^ミの^ミう^ミく^ミ籠^ミ子^ミよ^ミし^ミら^ミも^ミあ^ミう^ミら^ミア^ミま^ミそ
あ^ミう^ミう^ミ月^ミの^ミう^ミ小^ミ見^ミて^ミし^ミも^ミう^ミう^ミの^ミ世^ミ小^ミ又^ミう^ミう^ミひ
ま^ミや^ミあ^ミう^ミん^ミと^ミあ^ミや^ミさ^ミま^ミは^ミ思^ミひ^ミし^ミハ^ミ籠^ミ扱^ミる^ミ
あ^ミり^ミま^ミり^ミと^ミお^ミ籠^ミし^ミ右^ミ結^ミふ^ミは^ミ心^ミも^ミお^ミ籠^ミま^ミき^ミく
と^ミお^ミ籠^ミあ^ミう^ミね^ミ我^ミら^ミお^ミ籠^ミあ^ミ井^ミえ^ミを^ミ袖^ミの^ミ甲^ミよ^ミわ^ミ入^ミね
ら^ミん^ミと^ミあ^ミり^ミあ^ミら^ミる^ミく^ミお^ミ籠^ミく^ミさ^ミせ^ミ結^ミふ^ミお^ミ籠^ミあ^ミう^ミり
ふ^ミ人^ミま^ミる^ミく^ミて^ミこ^ミり^ミ火^ミさ^ミう^ミ人^ミう^ミす^ミう^ミら^ミま^ミは^ミお^ミ籠^ミあ^ミう^ミり
ま^ミが^ミど^ミう^ミひ^ミう^ミら^ミま^ミは^ミお^ミ籠^ミひ^ミう^ミら^ミ小^ミ女^ミあ

申すもあらくはうらみ色あはす寸多やむやりの小をて
るにてやりの衣引くはきて申すもきりひりひ
あはれなるよやう小みやじやうなりまををまふ
より快活ひくもしあうこれん通しあはるる
通しやうきをれた女いらうへを早さす只思ひ小
あがまうらうを氣多減ふもひ涼あはれかかり
月もよび教のま枕よ見てもねまのあはるるは
心海よひよぬかをあはれうらひ移へたるは
法蓮なき氣多して種蓮ねまはをのがつむさを
あはるるあはるる人の別とを思ひあはるるねハハとこれ

多と若^{ツギ}波り波りつうらとけやうとさねくも
ひ厚くうふ成く教もつうきありぬのはまるる記
新よ立ぬらせ給ひねを後よりなごはせうそく
あはれりふもりるさい法文の教もやちけくあは
あはれんとあがゆる種よ種をれた女もあはるる
あはるるよん引まくのながまは下るりな舟のいな
あはれ地すと思ふあをささ小あんのあはるるあはり
あはるるなひよ人目と甲の関あはるるて月はさ
あはれ給ひきんよ武部が種ひて房くりふ備あは
又^{ツギ}續小糸く貞^{テイソウ}親^{シン}政^{セイ}あはるるあはるる小首^{コウ}座^ザのたあ

ていあんさうじしめ張さる記ふそあへ ケシロ
よかー所さいいまんト結ひしときてうりさめ
とび女ハどぞ小隆氏リシハ物ツせりと申せりかしと
家よりさめ小隆と申すめさうく美とやめ結
きと誤じたりと云はくくと申右てりりる建
え右の君ハ即く賢人ケシのりさめハ付くりる我好
びんと控結ひきくそりるる我るまはとぞふ人
のいひ名付てるりきりる申とさげく人比ん
と厚ぶからん右のさめとさう世のそり里頭
思右て共いん乃申すはふひのりりまを結けき

花田コトバ河よけおされと此文とぶふ書たきて角花
やう結し百執乃あちのうりき今ハ我や教書カタ
ましと折まひてあまのうりき小思ひ亂れ結ふ
かくて月月えるをまは極大さび事とぞなるひ
花柳よまるとのいんよけらまんとりでく
びんあふさう美あへしとそとやあうわあり
うよふ乃とぞくけまはまを今もいんくうり
さくまう此文のりしよりりもらるるて
あうせもわあやう満りきありぶふ
思りわあせよるひをさうひと

女ももやあまなりつまなかりし心の預我あう
うき拙よ思ぬすん地よ歳小まねく河あうく
うらねるさうさ名とわのく思つた者
う務よけありのさひうさうあや

そはよりハかあさあさふじまびとらましん
乃下ひを打つけてうよの枕と河橋はあはんを
懐うわぬ整り小感あうはひきてハういらう
の整り深を又死く者同くけの下ゆをと思返通
りきて十月あま里よさうりよきうよ又下北乳
製茶て一乃まあ女作のもさへ流されさせ給ひ

あうけさやとあハひりねよとらまうせ給ひ
くわふとあうなるけさあうませ給ひくせあう
あ記よの別なりせさうきよう人ね余よてはま
あうんねの整りとねびるさよ同世あう満山
と海てなひ小風乃便のさつまをさう小えうさ
たしては目比石所うりまきん善侍友女の一人
毛兼り通りは可着小かろり世小歳く人比寸と
あうじうらよまぎふ乃着の露けさよ石神のか
りく深えさく思るのを給ふはありねりそら海
乃玉のとまううへねらんとあやさ箱の由

事也まを物と作ありし日より志の事
作乃乃の事一ちありすもまやうねよ又うり
そんえまやまの作名跡をわかると思ふし
うまぐにもう入られも乃のうま兼此露たよ
まうまてうせ給ひねと思ふうせ給ふおしした
思ふまわ作命ありうへてお作のうまとりふ作
乃濃ましくい世の中をまをわ流のうま小流これ
て月日と送らせ給ふはしあまもあまのうまけ
きまをうていともんあまをうあまのうまひら
おまをうせ給ふ作ありおの作りうりく思ふり

きれい作けいごよのうまのうま何ううま
くひるままやま不流思ひくあまへ入まのうま
うれ作人しとて作一まままのうまのうま用意
と油こよましまりうせ給ふまのうまうりま
うま一と思ふて只一人のうまのうまをうま
府生まのうま文とPのうまのうまへのがせ
ら家文のうま文城給くあまのうまのうま一乗城川
の作へあまうまのうまのうまのうまのうま
のうまのうまのうまのうまのうまのうまのうま
右ま本まのうまのうまのうまのうまのうまのうま

とふ人も多くあまをてりてまのり
立馬のちせ流ひぬんとかあるこの流
未^ス成^ガ形^ノ種^ヲよすが乃^ラ興^ラるら山里小松の神^ノさ
原^ノあ^らち^なりよ^はら^いひ^りて池^ノの^まじ^りこ^え
すきま^しも^みぎ^のの^松此^のあ^らじ^も林^さび^く吹^キ
あ^りり^て推^すま^ねら^んと^らり^も物^うけ^るら^宿
乃^内よ^びし^城う^んま^らと^とま^きら^あや^やと
立^備と^もと^まけ^しま^らら^あら^もな^き此^ら
と^と也^或又^うま^らく^思ひ^て甲^ノ葉^同え^りさ^す
乃^内地^乃原^よま^らり^内へ^入く^甲門^のえ^んの^お

小^まま^れじ^やあ^れら^ん見^及の^内り^遠は^流流^ん
せ^まて^あま^やと^計の^内よ^あの^よふ^やら^な
う^う何^れ位^位お^さら^くま^えら^く女^房う^らあ^まら^い
さ^らめ^きあ^ひて^ちら^く夜^のこ^ぞう^くま^らん^或又
乃^使小^お上^上里^気色^為集^りて^はと^甲え^あん^寸楥^三
よ^まを^打け^てさ^あく^とる^さ君^うり^良ま^て
只^気色^とる^あま^け或^又ま^らの^およ^びご^まつ^き
雲^井乃^よそ^よ思^ひや^りま^らう^らえ^らん^思ひ
う^う記^四事^一ゆ^くと^をり^ふも^て田^全へ^下
ゆ^へとの^内使^よ集^くひ^とて^内文^うけ^り急^き

ひくまて水鏡せしあはれよむふえは思ひのせり
さう久さもしそと老いてしくのししふとく
霧乃水袖よあまの計るりやりのあひと
乃とぬわなりたそう紀よそせめてさう人め
とて改小門おありきれて或又うひくく
池奥おと病おし先あまが勝色らごしまりせ
て海海乃吹風とぞお約束りりきり折若鏡
人よ松浦お岸くひひきり民士は浦小風と約束
者ありきりかみやまの酒もしと知さの原
より見まひらせくこちそを天人のびおへあま

らごまらしく因り事せはまかり酒よりきりか
あまあらしきあやあひまあう人あくとあま又
いっさう女院ひめまゆくと海しませ一転の程
乃整りと百年の余ふのむんち何り母からん
うぐいひおと下らまやと思々うあ小茂又が下部
乃湯の湯小おと約束りよよひあて酒のませ列
お抱はるとさうせくとさうゆくえ酒造り直のを造
志尊てお小めさせんとはらう上らういりさう人
よて水鏡りあうそととひけま下らうのまら
あまお酒よめて引お抱よあけりて夏の新まは

空家よ火をうけて又おめさてぞよせうりける
或文んあうけしとどは浦風よ吹おかりまきうり
櫓よ目られてあせぐるも極もなうりきれも先
まやす所どうきおひまのうせびふ歌と打ちう
ひて押るる舟とまのひさりのるる船までそのま女
性^{シラフ}あうこのせまりて結ひへとりてみぎを
ふぞ立うりきる舟とをりておがうりままうり
う乗よ来ある船をせうく一歳ふあきう人う
よせをりて或文大ふよろうひと座敷の内小打
垂^{フキ}垂りぬおとあるは是は傳^{トモ}の女房達とを

船小のをびとてまうりおうまは南あけまや火
うけくわうお梅の人をまうりまうり松浦を
う梅く我舟小び女房ののうせ結ひうりま結り
るき結りの櫓うるとおうりうくううひて是
色ぞ今も浦舟小のまうり船小まきんぞく百余人
とら櫓えぬあ人と結ひ船小ぬあうりうの押
あぞこの船おうり或文の記さうお梅もその舟
よせられしうとよ座敷の内小垂ゆりてせつら
上らうと陰へわけまのうせんともむりけき
花舟よなう入そとて吹風よがとよまてお梅

次舟小海^シ里ね又自らりまらあまの小船より
乗く自ら紙とて行く何たして水舟と遊^ユはけじ
と一きれた吹風と始まら大船小と一舟の小船
遊^ユはくもさよあらし遊の始まよ向くわみぎ紙
あげくまのひききん紙紙浦、船小とらとまらふ
發とずてやととらねまのうみを渡あはは只今
の程は海^{カイ}底の砂津と感くそ舟とけ感らまらさ
まのよととりらして後十文字よわき切く茶^サ海^{カイ}の
そこすぞまのみきんまやす取る紙封の入りり
けらよひのまのさりざらりまらもあらも水舟よ

そつは兵着のうき橋う記ま門とあらしせととと
る心地まき物とるり新事一たあらしせ給り紙船
乃甲るらまのたがあらし大對のまらまま此女
肩と人ふらとら遊て賑紙切けらあらしうまと
さしとらとて文うらりやうんとはやあらうら
そ前とぶふ見やらしせ給り舟共^キ長引^キ門とて屋
飛の肉よあら記ま門ませ給ふららとあそらうら
ひくつけ氣するひけ男の遊やとるまらりてりら
あらしと黒さうらそらんよあらし何紙うさのこは門
切らし給ふぞ面白^{ヲヒ}乃すうら名取は紙紙境下て

市んをえましくさ海せ給ひひくは極ゆくまり
るらん人も船よけあふ極ゆくひそとやうくさく
さあ尸せた市りかどを文小まさけうせ給り
只ツニ思と一川車よのせまぶつ之ううふさかさす
らんを毛ゆけまじと市ん浦よひてさく入を給
ねばまれをむくはけ男もあまうさふよりり
て気う人あされうり神テイなりを熱い大物の浦よ
いかりとおうく世城浦風よあまひ給ふ
まは風よく成ねとて同じと海軍の船を不と
挽カキととりよめが極こら記行をまは初いともや

乃カスミ霧小海ハダうりね九烟より川う新屋のんすん
と人のりふとさるすそきてあんげくしよテ行カ極
也と市んりそさ小付てえ小野天祚あう人神よ
海せ給ひ一そ右の市りま思右あうせ給り
我と給へ極し給り一ませと市んの中よ新らせ
給ふそ月うられ種よ河波のうり戸城通らあよ
織小風切まり極ニびよてば給文小初やうす船人
かと別くあうり乃ゆそへあよまんとままは
岸ヲキ乃極合小大なるあまの慮え忍入れわり製来て
船と海カイ極小ま川めんと寸スあ立挽カキあしてか

ひらるるどとるけ入りくうずよ巻^{ニカ}せくを同は
舟とるる通さんとてはらよ舟のうきうきすうど
海くよ海と波とた小舟のまりのまらちやうとと
をすりりえ程もやしきお何板船の懸繋よ同
うけられつりとはきくあり何とを海へ入よとて
ら矢うらり刃^{コロイ}獲^{ニキ}て巻^{ニキ}投と通るくうけ入られた
うとまよく事^{ニキ}一程やまもさうしてはあふありのい志やう
よ同張忍入うららんとしてまやと水の池^{アカ}を^{アカ}
まらまどるけ入られも白浪^{ナミ}多^{ナミ}書してまみらと
ひいせのうがしく也きようどまのさかあま門まらり

これ左船ハ程中ハ所あぞまらり居ある角て三
日三夜よるりままた船の中人ひらりおおき
上ら寸留船座よあひ那之勢よよおめささけぶ
事一りきりあ一まやと所あさうでぶふりける
は心地をあきよよい波のさりきよ一程地をえも
さうして更よ人んえさう一海さすよりやうさめと
らんよりさりうらうらせめえやとま門めとや
とけ思おは連たさすがよ今とうきとさけぶ
勢とすおせはちりろろそのこのみら門とるり流^{ナミ}
ま^{ツミ}罷よま門とるんたの世とぶふ誰うけありて

浦小をまよせ給へとて情なく切なきりびきまのり
せく浦へるけ入るんと寸毛箱のまよ感くま
何の由約うわらぬまよまは只羞の極小思返て
片やく息イキをもおしを給り此由人の中よ佛の
由名計と念ヨし思返てもやたき入せ給ひわらり
と忍くきり乞とて僧の一人便ビシ亦セシせくまらり
まらぐ松浦が袖とひんてこいりらるる由事
ぬくゆぞや勢神と尸も南あびくの感乃成とけ
て佛のどゆきとぬらうらまよて之月金ニツ皇サイ龍ゴ葉ウ比
手テ向テとうくへう守給らとゆきまらう人タと忽タま

海カイ中よまらめられも跡給神りり量て一人をた
寸らう若やゆぬき只キコ經コ成よまらう小成らうま
法衆よそまられ給りんまらうと給つくま
ゆへと切なくせいしるまめをれを松浦シ理リ小コ行
てみやま不誠と海屋の同よのうらら小るけテ授
まらうらうら信乃シ誠シ小コ付ツく新ニとせよやとて松中
の上下イ異ド口ク同ト著シ小コ親ク善シの名号ミマウ誠シとらまへまをら
時トうらまらその花波のよ小ウ深カひ出デく忍ニくうら
先シ一番ハ小コらシ記シ紅ベニきうら仕シ了リが去カ持モ成ニ形カタとて通
と思えておらせぬを次ツギよ由ユあけのるよまら

よけてお湯が赤い酒とさうしてふりまねと忍び
けうが一乃昔の神ツキ津よりびこ山おろし一ふら
ふれて行方あつた俄ふたりをたぬま月まり風
やもきねんみ屋と取の取赤ふのせられつら水
まうひくお船とさきいよせて漢語アワナのひりま
りふ取へはけまうは橋の為神テイまりり一里り
ううぬ取まてつりまらあまの家さうでい人ス
もる取橋さまを深ニわらうらあ一此屋のうさ
昔志けさすさうふ入まりうせうらふび世み日
乃波風ふ取さもさうく取ふよりりてなうくたさ

のそ後ひかりんあき海人の子たさもさのりふ
志まさんとあささうのさうかよあささうさう
とことあうひて取口よ入らうと志まねと志
一てりさおさせ強へ里さうでぶふ海のりん取
袖まのささ同をなるかもさよと後そらさうく
りかさささあさるささシ橋線さう福むり川迄角
てささささるささ取のささこりよ浦へ送てを
取れり一と打まひらせ強へはあまを路同ん小
志程りりうく取海り以上らうと親赤が船小
のせまのうさく遠ニことと取ト迄送まりせらん

よ何乃とまりあまう人のうまひとりまひせ
ねまのひもさと町浦さ由波戸せ波力及もせ
結りすして波のうら石よ由神波あかりはく今
年ハ着ふて書し結ふあまれあうらひもなうり
うりさて一乃文書或文波系へ上せられし波ハ
母日まうらふ小波相違た何た由左右波戸さわあ
いのまうら目あまあひわうらうと志門んまう思右て
兼し重下まう人よ由波ありきねて去年の九月
よまやとあま結と由おまて上作へ由下ゆしく
しと結よ取ししく戸ままはさてい乃まて人小

うまのまわらう又世とう風は村あされは
乃塵ゆえ志門みわうらう一あまう思ひは門
相違させ結ひうらよあう取由きいじよ系あう
或士た中門ふまの井戸てよえ山の事た相違
志まうら若り中みわうらあくえ去年の九月何波の
まうらと波過て南園よ波里し時船乃うらまうら
うりし表波あ上て思まうはよの常此人のまう
ぞくた思くまうらうかりしまよ気いり、極
院因纏乃上らう女あまの田舎へ下らせ結ふ
が難風ふあふて海よ志門み結まんと志やうそく

まてぞあうらんと治カクくわなるあまきやうとP合
きまけまめき球小字なれあまテハ球束してやあ
らんとふきんゆやく思ふくわうくわうくわうくわ
うきゆきありまき未何くむ指く糸きとゆ伎
まけまめきとそんぶてうたのまの私ワタシまゆ
てるよせまりうせうりま結くまゆゆ境まは
まゆすゆゆ色ようけあんと糸へ上せられし
時何り井ヒコウジの老目ヒコウジのまゆそくまりうせうりしゆ
きわ也あまゆきやとてうら球しうらきれと
る制してうい合せられうらまあやのりんがえ

まゆチカイゆきゆきうまゆ二目チカイ在ゆ境まゆまゆすばま
とゆりがよとあまゆ境まゆのこゆせき
宵井もゆあまゆけううなうとと袖小結カチゆき
まゆまゆ今まゆ境まゆのゆ世小をゆ人まゆ
病之思ふふれすまゆわゆ境まゆりし日境まゆ
人乃思目とまゆられ自由境まゆまゆやうせられ
念佛境まゆへゆを結ひくうとこヒコウジ電具ヒコウジ宿原ヒコウジの氏
女并小結ヒコウジあまゆまゆ文たま三界カチの昔海カチとゆ
まゆ九ヒコウジ品ヒコウジのあまゆまゆゆとゆらゆ結ふゆ
まゆまゆゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆ

比より法國小軍およりく六くく 薩會九國小國
乃の款と之同時小国らひあうけ 先帝^{テイ}を隱^{フキ}彼國
より還^{クワ}幸なり一乃まハ女^ト作^カの類より初ハゆり
のを給ふて下^{モクシ}家一とりの内世と激く目お
りありも一乃まハ女^ト作^カの今世また
り一まさうねまとるけま田^ア石^イをくお小^ア侯^ゲ侯^ゲのま
鴻^ニ小^ニ未^ニのさて内^ニ座^ニありとゆえままは惠^ニ内^ニ色^ニ成
下^ニされ初^ニハ海^ニ上^ニらせ給ふ只日^ニう^ニ志^ニ門^ニが他^ニより
おえ七世の孫^ニよあひ方^ニ士^ニが満^ニよ入^ニくやうまひ
と見^ニまりし小^ニく^ニな^ニく^ニす^ニみ^ニや^ニま^ニお^ニる^ニん^ニけ^ニく^ニし

よ^フ進^ニさ^ニう^ニ一^ニ時^ニの^ニん^ニう^ニさ^ニ波^ニよ^ニま^ニり^ニし^ニう^ニこ^ニこ^ニに^ニ此
ま^ニゆ^ニり^ニ成^ニあ^ニう^ニそ^ニふ^ニ命^ニの^ニ種^ニう^ニへ^ニう^ニり^ニし^ニま^ニの
田^ニひ^ニハ^ニ内^ニを^ニ一^ニも^ニり^ニを^ニ候^ニく^ニや^ニと^ニて^ニ内^ニ袖^ニあ^ニわ^ニか
針^ニなり^ニま^ニハ^ニ又^ニか^ニ後^ニ子^ニ承^ニの^ニふ^ニら^ニの^ニ兼^ニよ^ニ書^ニた^ニ書^ニね
内^ニな^ニけ^ニき^ニな^ニさ^ニ初^ニと^ニひ^ニし^ニ月^ニ日^ニの^ニ扱^ニ内^ニ方^ニよ^ニ續^ニり^ニし
う^ニの^ニま^ニち^ニ語^ニか^ニこ^ニく^ニむ^ニあ^ニと^ニろ^ニう^ニ也^ニと^ニ明^ニさ^ニく^ニど
う^ニ世^ニ給^ニひ^ニま^ニう^ニう^ニま^ニう^ニり^ニし^ニ世^ニ中^ニの^ニ時^ニは^ニま^ニよ
引^ニ替^ニて^ニ人^ニ君^ニの^ニ榮^ニ花^ニ天^ニ上^ニの^ニご^ニら^ニく^ニ務^ニめ^ニす^ニと^ニり^ニよ
ま^ニる^ニく^ニけ^ニく^ニさ^ニす^ニと^ニ云^ニ内^ニ幕^ニも^ニう^ニ一^ニ女^ニ生^ニ後^ニの^ニう^ニり
よ^ニ度^ニ里^ニら^ニま^ニの^ニ西^ニつ^ニら^ニれ^ニと^ニ海^ニよ^ニら^ニす^ニ不^ニ老^ニ門^ニの

おしげ揚柳の風折成るるさす今日成ふとせの
始と目おきとめし思ふきりしよきみのつき
てそのもあう人君の想をきけ中一年まで達
元年の冬の比より又下配てふ家の世
乃感敷ふりあう一のまははあふ小越お金
勝の激ゆく水自害もて水首束初よのわりて
林ちの長老びそうくしうりまいとりなをこか
りうるとやうあうはまや水あまうりのせん
音あさよ水車ふたもけのせられて操林音の高
まて浮きおさせ婦人しをぞそ水りくと免あて

すきそあゆ夕の夜よ水機松れ嵐小うらるび
きんやとくきみのわりううね判のりうささあ
推してをとるうあうね海それともまおとれや
しくるさ水身と剣乃うれよふまて林の戦下
よさうしとてさせ結わゆる水変ハ教あさうなま
かまは思ひやりあう今あひさまこれ水あり極も
今一入の思ひ成そくは小とうあひおぼの機
と立のわりやうりうあんくの露たさえあまや
とろろ車のとことけふう一水川ませ結さう水
ふ乃中しとあうれままきめて回成ととふらん

ちくまんこまうの月心とりい海一め海く妙ん
けいよあせしせうまうまんまうの風着と吹着
まうよあまひまうよあまけき日しと小涼くるり
初きれて居るくみやまの地於く山中陰
の目おひまうをりしねまよまうまう激せ給ひ
まれまうく人毎まをへてまうひすくま紀
あまままう小居たままうまぬしきり
比穀山ういひやくの事
金が勝乃城せめおとられて後徳圃の文方力を
うらひきりまや或る時系し戒ハ返あまう天下

均軍乃感よあまふ事あまうあく風の葉本を
まびかどが如しまこ所こま文方の城まて山門
又いりまうまてかうんすまんとあまぶまれ
し種一と夜流のふとまど山門の雨候とえ小
わんどとあされまうしが今天下まぞ小民感小
まうて弱強しわうま何の所まうあうつま
もていお乃せいまの乃まて山門と三井
ま乃来まうまわるま又まままの雨候ままけ
まうまびやくなれま一島小丸流とまうまう
し夜流まひおまうまを軍勝まやあまま

三ツ
何^ニありむん法^カ界^イ乃^ハ妙^ク祈^イる^キま^シて^ハ由^レの^キう^ハ家^ノふ^の
うめ小^ノ昔^ハわ^ハ乃^ハ義^ノの^ハ國^トさ^ハる^ハゝ^ハあ^ハん^ハあ^ハん^ハぶ^ハさ^ハい
とよ^ハの^ハ一^ハ東^ノの^ハ中^ノ津^ノ國^トは^ハ早^ク見^レ給^フよ^ハ時^ハあ^ハう^ハが
や^ハあ^ハさ^ハあ^ハく^ハせ^ハは^ハ乃^ハま^ハこ^ハの^ハ代^ハな^ハま^ハけ^ハ人^ハ未^ハ仏^ト
は^ハ乃^ハ名^ハ字^トと^ハふ^ハも^ハさ^ハう^ハす^ハ然^レま^ハた^ハ地^ハ大^ハ目^ハあ^ハん
せ^ハ乃^ハ中^ノ國^トと^ハて^ハ佛^ハ法^トと^ハぞ^ハん^ハの^ハ具^ハ地^トと^ハり^ハべ
ま^ハれ^ハり^ハ乃^ハ建^レ乃^ハ所^ハ小^ハの^ハ意^ハ紀^ハ利^ハ生^ハれ^ハ門^トと^ハひ^ハく^ハ
つ^ハき^ハと^ハり^ハな^ハた^ハし^ハあ^ハこ^ハと^ハつ^ハん^ハま^ハき^ハし^ハ給^フあ^ハぢ^ハ小^ハは^ハ
叔^イ山^ノ乃^ハ少^ハり^ハく^ハさ^ハく^ハあ^ハま^ハや^ハま^ハが^ハの^ハ浦^ハ比^ハ邊^トと^ハつ^ハり
と^ハさ^ハま^ハ産^ハせ^ハら^ハら^ハう^ハあ^ハり^ハの^ハり^ハと^ハや^ハく^ハそ^ハん^ハあ^ハま^ハ小

向^クお^キか^キか^キ一^ハ地^ノの^ハま^ハう^ハく^ハと^ハは^ハ山^トと^ハま^ハま^ハ
あ^ハく^ハへ^ハよ^ハを^ハ乃^ハく^ハの^ハ地^トく^ハ漸^ク佛^ハ法^ハ成^レひ^ハあ^ハめ^ハん
との^ハ給^フひ^ハを^ハ乃^ハて^ハは^ハお^ハさ^ハな^ハあ^ハく^ハて^ハ曰^ク我^ハハ^ハ人^ハあ
六^ハ子^ハ藏^ハ乃^ハ始^ハり^ハは^ハ乃^ハの^ハま^ハく^ハて^ハは^ハ乃^ハの^ハ七^ハを^ハ色
く^ハと^ハ原^トと^ハ意^ハせ^ハら^ハと^ハ見^レら^ハり^ハ但^ハは^ハ地^ハま^ハら^ハの^ハ地
と^ハる^ハく^ハと^ハつ^ハり^ハす^ハら^ハ乃^ハと^ハう^ハな^ハふ^ハつ^ハ一^ハ秋^ハさ^ハら^ハや^ハく
去^レ之^ハ他^ノ國^ト小^ハり^ハと^ハめ^ハ給^フ人^トと^ハぞ^ハあ^ハみ^ハけ^ハつ^ハは^ハあ^ハさ^ハ
あ^ハい^ハも^ハあ^ハく^ハひ^ハげ^ハの^ハ竹^ハ林^ト也^ハ秋^ハさ^ハあ^ハま^ハま^ハよ^ハと^ハて^ハ寂^ハ光^ト
出^レ小^ハ坂^ハら^ハん^ハと^ハり^ハ給^フひ^ハを^ハ乃^ハあ^ハま^ハ東^ノ方^トさ^ハう^ハあ^ハり^ハ世
果^ハ乃^ハあ^ハま^ハ意^ハ驚^ハま^ハざ^ハん^ハせ^ハい^ハ忽^ハ然^トと^ハて^ハあ^ハり^ハ給^フ人^ト里

釈尊大よる見さし給ひく以前らうあうがりの
所らるしと治給ふ小いほうせんせいせうせん
あく宣りくふきうみやうせんせい地小佛は
と弘通^{ツラ}給りん是我人あ二万歳の始より此國
乃地まらりばらうあうりまうと我とあう何ぞ
比山とあうみまらるるや^{キエニ}や^{ツダ}縁^{ツダ}時^{ツダ}あてあうあう
東流せば^{ツダ}わくせん^{ツダ}あ^{ツダ}と^{ツダ}傳^{ツダ}る^{ツダ}大師^{ツダ}と^{ツダ}感^{ツダ}く
比山とあういひやく志給へ昔^コハ比山の王と感く
久生はみ百歳の仏法^ミあ^ミる^ミと^ミせ^ミい^ミやく^ミ感^ミ
る^ミ二仏者^{ツク}東西^{ツク}より給ひよきり^{ツク}あ^{ツク}く^{ツク}子^{ツク}ハ

百年と経て後釈尊の傳^{テン}あ^{テン}大師^{テン}と^{テン}感^{テン}せ^{テン}給^{テン}ふと^{テン}磨^{テン}
其三年よ^{スナ}て^{スナ}めて^{スナ}求^{スナ}法^{スナ}の^{スナ}う^{スナ}あ^{スナ}漢^{カン}上^{カン}小^{カン}波^{カン}給^{カン}ふ
別^{スナ}歌^{スナ}密^{スナ}藏^{スナ}乃^{スナ}三^{スナ}字^{スナ}あ^{スナ}ん^{スナ}て^{スナ}い^{スナ}よ^{スナ}玉^{スナ}と^{スナ}秘^{スナ}る^{スナ}ひ^{スナ}同^{スナ}あ^{スナ}は
年よ^キあ^キ約^キし^キ給^キひ^キわ^キあ^キ小^キ檀^キ或^キ宣^キ帝^キ法^キの^キぶ^キん^キと^キ
歳^キせ^キ給^キひ^キく^キ以^キ敷^キ山^キと^キう^キう^キく^キせ^キう^キあ^キ始^キ傳^キあ^キ
大師^キ勅^キ給^キう^キけ^キ給^キく^キ板^キ中^キ堂^キを^キた^キて^キん^キて^キ地^キ張^キ
ひ^キう^キ進^キを^キら^キ小^キく^キま^キん^キの^キく^キく^キる^キ人^キの^キあ^キこ^キ一^キ
五^{ツチ}乃^{ツチ}鹿^{ツチ}よ^{ツチ}ら^{ツチ}て^{ツチ}は^{ツチ}華^{ツチ}ど^{ツチ}く^{ツチ}志^{ツチ}あ^{ツチ}の^{ツチ}く^{ツチ}急^{ツチ}や^{ツチ}ま^{ツチ}ら^{ツチ}大師^{ツチ}
あ^{ツチ}あ^{ツチ}て^{ツチ}そ^{ツチ}あ^{ツチ}城^{ツチ}と^{ツチ}ひ^{ツチ}給^{ツチ}ふ^{ツチ}よ^{ツチ}は^{ツチ}あ^{ツチ}こ^{ツチ}あ^{ツチ}て^{ツチ}
曰^{ツチ}よ^{ツチ}ま^{ツチ}ら^{ツチ}比^{ツチ}山^{ツチ}よ^{ツチ}值^{ツチ}して^{ツチ}六^{ツチ}万^{ツチ}部^{ツチ}の^{ツチ}法^{ツチ}華^{ツチ}經^{ツチ}と^{ツチ}と^{ツチ}く

ト由^ユ一^ニう^ニ余^ノの^ニう^リありて^テあ^らま^りて^テふ^くす^く
ソ^レは^善業^はく^り事^一あり^てあ^らま^りて^テあ^らま^りて^テあ^らま^りて^テ
ア^まら^し又^中堂^造受^る人^をり^りて^テあ^らま^りて^テあ^らま^りて^テ
大師^の子^の川^のう^ら茶^師の^ごう^の法^儀り^給ひ^し小^一
お^のの^と下^をて^ごう^のう^らて^んド^りや^くお^のの^ご
号^茶師^{あり}ち^まう^らぶ^門と^らな^へて^テ礼^ねし^給ひ^し
き^ん時^ふり^くさ^うの^法く^しみ^らと^らな^へて^テ礼^ねし^給ひ^し
う^らま^りて^テあ^らま^りて^テあ^らま^りて^テあ^らま^りて^テ
お^のの^と下^をて^ごう^のう^らて^んド^りや^くお^のの^ご
あり^てあ^らま^りて^テあ^らま^りて^テあ^らま^りて^テ
あり^てあ^らま^りて^テあ^らま^りて^テあ^らま^りて^テ

し^まぬ^や小^ひえ^の杖^のひ^りあり^て
あり^てあ^らま^りて^テあ^らま^りて^テあ^らま^りて^テ
と^あら^まり^てあ^らま^りて^テあ^らま^りて^テあ^らま^りて^テ
光^明の^くや^くと^らり^三月^の日^輪を^中ら^りと^らび^ト
ま^りて^テあ^らま^りて^テあ^らま^りて^テあ^らま^りて^テ
あ^らま^りて^テあ^らま^りて^テあ^らま^りて^テあ^らま^りて^テ
俗^新と^てあ^らま^りて^テあ^らま^りて^テあ^らま^りて^テ
し^のこ^の行^乃を^せく^ぎや^うし^んぜ^そく^が大^師と
や^め給^ふ大^師と^らい^まり^し給^ひて^テあ^らま^りて^テ
名^とき^しん^とと^らひ^給ふ^よと^らな^へて^テあ^らま^りて^テ

てんよまじうの一てんと加まじうの三てん小吉の
 の一てんとまじうの我因由は南宗の教法成あり外
 中はさふいどのの方便とてまじきんさめよび山よま
 まじりとあまう人の子まじき天よ加まじきまじきまじき
 乃らんけいの一と大師の言とて文字と成
 よまじの三てんよまじの一てんと加へくま山
 とりよまじなりまじの三てんよまじの一てんと
 まじくま王とりよまじ也山まじき大のてうと
 り所ら教王の天地人の三まじは體緯ある法と成
 り一終人の子まじうるまじとてまじと山ま

とわがめまじりのてゆり大ま指現ハ久き実成の
 古仏天照太神乃まじうまじき南宗の教法とまじり
 久き比教山よ高まじり教よ法南大菩薩たまじり
 既よまじき三界乃まじふ教亦まじ中師なり電美子まじ
 亦安南宗の化まじハ機大がまじ門の分男まじりとや
 りまじけのめ乃まじりてまじ小三電比教とまじり
 既よまじき三界乃まじふ教亦まじ中師なり電美子まじ
 乃雲霧成ひくくまじりまじきまじり一念とまじり
 花必のんまじりまじりまじりまじりまじりまじり
 小たよまじり南宗の教法成あり外

ワラシラシラシ
性生あまハあ小故腕乃をワリよあすや二の
まハしめ大智教と摩くとあし給ひ一東方
さうありせういの水東吾國秋津の地主也得て
あよあまらん乃ちうひをそふうあまらんせわん
あん人皇孫生あま乃新あ小故生がごいの指
よのうすや八王子い子に親善のまハ一やくび
あまらんまんの力とをてあまくまやのま若張と
らふらんあまう大は王子也故よ大八王子とりふ
本地せいあまうの月ハあ東家小故すくとつた意紀
あまらんのうけあ遠小少りとああまうり一霧と

うふ小者取右乃津とあまハあまはあまらく
らんた尸川をうまらふとのまあ十一面親善の
あうさ白山禪定の具林ありあまらよ山王乃紀と
あまけ水濠乃そうりう小あま東山の具地小東
あまあままらふとくまはく現在生甲まは十種
乃勝利成陰余終乃財まは九品蓮華まは生ま十種
師のまあまは仏世界の土地あまらたの意紀あり
あまびよゆいあまのあまうけうりまのふぞく
よあま二佛中間乃大母師三智親善の法辨あり
あま純意まは三子のあまを摩するひてあま子と

志一系セウの善法ゼンポフ成りて我命とすく志シめ一一後ゴふ
もひびせうの法縁ホフエン也とりふたよるくく
あいの里サトやくとつう梅ウメるる一三の文モンハふま
善薩ゼンサクの體テイ化ケ妙ミョウ法ポフ蓮華レンゲの正シヨウ辨ベンるり一系セウとく下ゲの
乃ノまとのまへゆけやうのうとてきてあいらん
と網ナウ更シし終シユウふ既キよもごんぎうんげの善ゼン直ジツあり
六ロク極キョクさい志シやうの我ガ亦オクるんぞあ成シヨウさまらさるん
や次ジよ中チュウ七シチ社シャ半ハンのみこい大ダイ威イ徳トク六ロク行コウ事ジハハ
しやりんともやヤ為ナリ者モノ不フ動ドウ氣キ比ヒるニ親シン者モノ下ゲの八ハチ五ゴ
子シる虚コソウ空クウ然ニシテ王子オウジの文モンハとんちゆニあリあリよクあリ

意イ福フク次ジよ下ゲ乃ノ七シチ社シャ乃ノ小コ禪ゼン師シハみろくミロク慈ジ王オウ子シハ
あリせん竹チク五ゴ新シン約ヤク事ジハハきち志シやう天テン女ニョ器キ勝シヨウ者モノ
每ミ才サイ天テン山サン米マイ者モノありしてんニ劍ケンの文モンハ不フ動ドウ大ダイ文モンの
如ニもあリ大ダイ目メ智チ美ミ子シのうニまリあリ金キン剛コウ家カの大ダイ目メ
二ニ乃ノ文モンの如ニもあリ日ニチ光コウ月ゲツ光コウ者モノ大ダイ威イ徳トク門モンをシてハ利リ
生シヨウの乃ノもト極キョクさい終シユウふニ後ゴ天テンのニがリ門モン化ケとシて
けてハ下ゲ方ホウよりシてハ三サン七シチの具ク津ジンをシるニとシて
てハ空クウよクいニ縁エンうシ終シユウふニとシてハ利リ生シヨウのニまリ
くニるニ法ポフ百ヒャク子シ類レイ乃ノ男オウよク志シのニべテとシて
はハくニあリすニ山サンハハうニあリ志シのニのニくニとシてハうニし

三塔と云ふ人ハ一念三子乃我よりて可付と付
十二乃新王シニワラなるありとめりす可小下ゲの治
乳ラシびありたうと可らすとりふ事コトなく七シ就シ精コシ
現ゲンのまゝいしやを故は海内キウナウの若ニ西シを考カウんらんよ
よすとりふ事コトなくさまは新シン建ケンよ事コトあり
日ハ乞キ成テイ約ヤクてとさりひ成テイのぞきさのりひと殺
す山門サンモンは新シンあり時トキを乞キ成テイりさすひり小コ世セと
そて理リよせり事コト小コ交カウ小コ交カウの候コウ事コトと山門サンモン小コ交カウよ
あり申マウありしハ一イツ性テイ成テイのひり交カウ小コ交カウてり
窮キウ者テウ少シウとありよ入イ時トキハ獨ドク人ニンももとありま思シて

ありさ成テイりすりまていしちんや十善ジュゼンの素ソの成テイ
新シンありんンは誰タレうらうらさ成テイりる事コトと人ニン
そ胸ムネハ欠ケツ批ヒのともうらかこお洲シウと野ノ心シンとさ
しるさういし成テイ成テイさうと見ミとれうら成テイ成テイ
とをさかひまはり款ケンのうんとわのらんすり
法ホウとめハ却ケツて一イツ成テイの約ヤク事コトとなり約ヤク款ケンとひりさ
せん心シン意イしてみるさの内ウチとあり二ニ心シンあり共トと
なりひるしと内ウチ外ガイハ推ツイ殺シありうら小コ言ゴンとほく
あり申マウされりけまは拘コウ軍クンた共ト勝シヨウ成テイと始シめ
事コトと書カキ上ウヘ款ケン願ガン人ニン律リツ定テイ成テイ小コ交カウとありまてさてハ山門サンモン

